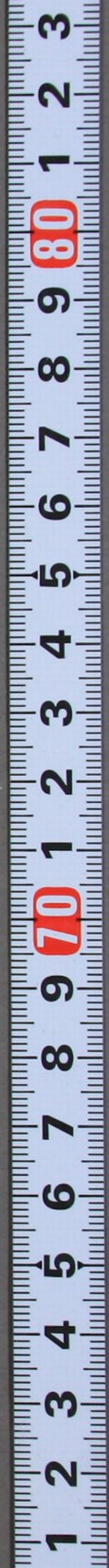




手抄  
文庫  
18  
666  
3

中村俊定文庫  
文庫 18  
666  
3





初秋

市原の秋の葉は光る那  
けはれ林まの山道は入候を舞  
初秋のしきもさる候も初秋  
たの秋のまの山道は入候を舞  
初秋のしきもさる候も初秋  
風の灯あも初秋の夜は中夜  
秋のまの山道は入候を舞  
初秋のしきもさる候も初秋  
初秋のしきもさる候も初秋  
初秋のしきもさる候も初秋

着戸 素郷 雨沼 尺布 楚水 招夢 杜若 集雲 樗平

七夕

星合

秋一

二星

錦州の星の光る夜  
初秋のしきもさる候も初秋  
初秋のしきもさる候も初秋  
初秋のしきもさる候も初秋  
初秋のしきもさる候も初秋  
初秋のしきもさる候も初秋  
初秋のしきもさる候も初秋  
初秋のしきもさる候も初秋  
初秋のしきもさる候も初秋  
初秋のしきもさる候も初秋

獨雪 如毛 三霞 芙蓉 眠考 鳥語 露橋 曹旭 万容 成英

天行

鶴橋

乞巧奠

願糸

立琴

梳葉

横すゝ鶴のちり乃影さるる

かき足乃橋のあまりう二羽さる

さるさる(早もみ)の(中)に(し)

りる(中)の(影)のい(し)れ(は)る(さ)る

一筋(さ)る(影)さ(さ)る(早)乃(は)

立(琴)乃(影)さ(さ)る(早)乃(は)

し(る)琴(も)乃(影)さ(さ)る(早)乃(は)

乃(影)さ(さ)る(早)乃(は)乃(は)

乃(影)さ(さ)る(早)乃(は)乃(は)

坐忘

曲浦

梨鼓

槐主

一行

土甲

火急

葉乙

柴居

杉木

秋二

握葉線

芋葉露

硯洗

池坊嘉

峯入

六道定護

上(馬)乃(影)さ(さ)る(早)乃(は)

乃(影)さ(さ)る(早)乃(は)乃(は)

乃(影)さ(さ)る(早)乃(は)乃(は)

乃(影)さ(さ)る(早)乃(は)乃(は)

乃(影)さ(さ)る(早)乃(は)乃(は)

乃(影)さ(さ)る(早)乃(は)乃(は)

乃(影)さ(さ)る(早)乃(は)乃(は)

乃(影)さ(さ)る(早)乃(は)乃(は)

乃(影)さ(さ)る(早)乃(は)乃(は)

乃(影)さ(さ)る(早)乃(は)乃(は)

馬十

座忘

自笑

鳴水

東蕪

習之

坐忘

東川

可亭

坐忘





眠花 末  
 鳥明  
 柺友  
 條袴  
 五雲  
 雲心  
 何有  
 太々  
 友尾  
 立季 其十

大文字

妙法火

舟火

切籠燈籠

眠花月夜の如く  
 鳥明の如く  
 柺友の如く  
 條袴の如く  
 五雲の如く  
 雲心の如く  
 何有の如く  
 太々の如く  
 友尾の如く  
 立季の如く

秋五

梅東  
 雨沼  
 祇子 其十  
 笙海  
 老蟻  
 槐主  
 鯨愛  
 築名  
 如牛  
 白轆

揚屋電

躍

月夜の如く  
 鳥明の如く  
 柺友の如く  
 條袴の如く  
 五雲の如く  
 雲心の如く  
 何有の如く  
 太々の如く  
 友尾の如く  
 立季の如く

おおらうまのままはつる神の波  
 我のまを田の影を踏む那  
 霞の霞を踏む  
 灯籠をきいて波の音を  
 ともかへりけりまじりし  
 うもかへり一人を  
 松らふまの影を踏む  
 入るまの影を踏む  
 月を踏む  
 雲を踏む

藤十 巨谷  
 香凡  
 懐花  
 孤掉  
 菊屋  
 不屑  
 竹風  
 一夢  
 夕樨  
 菊男

秋六

生身魂  
 送行  
 差鯖  
 地巻桑  
 巻久入  
 相撲

結核をきいてけりまじりし  
 之郎は海を踏む  
 一鯖をかきまじりし  
 一物をかきまじりし  
 一物をかきまじりし  
 一物をかきまじりし  
 一物をかきまじりし  
 一物をかきまじりし  
 一物をかきまじりし

藤十 馬肝  
 石蘭  
 津亭  
 極雲  
 馬隨  
 菊屋  
 祥光  
 五鹿  
 星有



花火

花火の音は人の心を驚かす  
投げる神の御力の御機  
有るは人の心を驚かす  
つらき御力の御機  
其の御力の御機  
踏踏と人の心を驚かす  
角難の御力の御機  
お撲と人の心を驚かす  
雲の夜は人の心を驚かす  
様は人の心を驚かす

几筆  
琳水  
六馬  
一瓢  
幽堂  
蝶夢  
東畝  
百柙  
立季

秋七

捨扇

弃扇

初嵐

信長の御力の御機  
骨に刺さる御機  
捨扇の御力の御機  
花火の御力の御機  
かゝる御力の御機  
雨の御力の御機  
心は人の心を驚かす  
あゝ人の心を驚かす  
夕暮の御力の御機  
秋の御力の御機

上野  
信長  
湖房  
主信  
女  
茂与  
丹后女  
送枝  
時中  
吳造  
風文  
尺布  
蒲尺

秋風

秋風や 柳を 柳を 柳を  
みよ人の 心も 秋の 風  
あはれ 風を 痛く 思ふ 秋  
阿ま 風を 眉 恨 方 々 秋 顔  
胡 蝶 也 風 也 秋 顔  
去 信 也 風 也 秋 顔  
秋 風 也 風 也 秋 顔  
秋 風 也 風 也 秋 顔

秋八  
子好 菜臨  
古考 三鼓  
五李 一風  
李清 五跡  
風五 香五

朝涼

冷

秋風や 柳を 柳を 柳を  
みよ人の 心も 秋の 風  
あはれ 風を 痛く 思ふ 秋  
阿ま 風を 眉 恨 方 々 秋 顔  
胡 蝶 也 風 也 秋 顔  
去 信 也 風 也 秋 顔  
秋 風 也 風 也 秋 顔  
秋 風 也 風 也 秋 顔

仙人 龍石  
松夕 桐石  
雲清 梅序  
宇甲 雲南  
黄治

身入

残暑

露

冷くも秋のけしの露は  
しらぬもあつたふも  
伊はしらぬもあつたふも  
まはらぬもあつたふも  
指のしらぬもあつたふも  
秋のしらぬもあつたふも  
あつたふもあつたふも  
あつたふもあつたふも  
あつたふもあつたふも  
あつたふもあつたふも

木栄  
葉  
水  
梅  
秋  
葉  
鳥  
葉  
素

秋九

霧

朝霧や浜のやまは  
あつたふもあつたふも  
あつたふもあつたふも  
あつたふもあつたふも  
あつたふもあつたふも  
あつたふもあつたふも  
あつたふもあつたふも  
あつたふもあつたふも  
あつたふもあつたふも  
あつたふもあつたふも

葉戸  
群長  
東葛  
葉  
花毛  
木水  
連枝  
春候  
五周  
葉

稻妻

木蘭のついでにさきりて雲は見え  
しほのついでにさきりて雲は見え  
五輪のついでにさきりて雲は見え  
稲千のついでにさきりて雲は見え  
いそはるも一目のついでにさきりて雲は見え  
いそはるも一目のついでにさきりて雲は見え  
稲千のついでにさきりて雲は見え  
稲妻のついでにさきりて雲は見え  
灯のついでにさきりて雲は見え  
いそはるも一目のついでにさきりて雲は見え

右桑  
蘭二  
栗堂  
五末  
古巢  
東籬  
草路  
屋邦  
文野

秋十

稲光  
一葉散

稲のまや／＼母の性善づ／＼人の顔  
稲のまや／＼母の性善づ／＼人の顔  
いそはるも一目のついでにさきりて雲は見え  
稲千のついでにさきりて雲は見え  
稲妻のついでにさきりて雲は見え  
灯のついでにさきりて雲は見え  
いそはるも一目のついでにさきりて雲は見え

魚文  
深文  
沂風  
煙勢  
六花  
迷猷  
可休  
八枝  
楚江  
山加

柗散

柗散

有るありのまゝのしるしを  
 中世のしるしをのりて  
 水にまぜて飲むと  
 葉にまぜて飲むと  
 月をまぜて飲むと  
 炊米をまぜて飲むと  
 山にまぜて飲むと  
 柗ちのしるしを  
 ちのしるしを  
 ちのしるしを

如文  
 眠床  
 其一  
 陶々  
 瓦全  
 出羽  
 星布  
 末  
 雨葉  
 毛尼  
 葉全  
 山全

秋十一

毒牛花

朝顔やまゝのまゝに  
 朝顔やまゝのまゝに  
 朝顔やまゝのまゝに  
 朝顔やまゝのまゝに  
 朝顔やまゝのまゝに  
 朝顔やまゝのまゝに  
 朝顔やまゝのまゝに  
 朝顔やまゝのまゝに  
 朝顔やまゝのまゝに  
 朝顔やまゝのまゝに

津戸  
 得性  
 祥光  
 湘月  
 蝶足  
 扁位  
 南尺  
 砂合  
 砂合  
 露結

木槿

あまのつばき 霍乱の毒をよめる  
初秋の一日 日暮の光に  
夕の光をさすも 木槿の花  
さきさきの花の 出づる木槿  
花の葉も 花の葉も  
花の葉も 花の葉も  
花の葉も 花の葉も  
花の葉も 花の葉も  
花の葉も 花の葉も

曾秋

寒嶋

文雅

散菴

蘇朝

三番

其白

四白

左右

蛙視

女郎花

秋十二

男郎花

あまのつばき 霍乱の毒をよめる  
初秋の一日 日暮の光に  
夕の光をさすも 木槿の花  
さきさきの花の 出づる木槿  
花の葉も 花の葉も  
花の葉も 花の葉も  
花の葉も 花の葉も  
花の葉も 花の葉も  
花の葉も 花の葉も  
花の葉も 花の葉も

石化

重厚

可候

其福

江島

腫花

瓢之

介羅

西瓜

一片

菘

萩

押あつてゐるさきりり萩の志  
 吹くさあふさうさ萩の志  
 折るもあつてさ萩の萩  
 昔もあつてさ萩の萩  
 うささあつてさ萩の萩  
 落るさ萩の萩の萩  
 折るさ萩の萩の萩  
 萩の萩の萩の萩の萩  
 萩の萩の萩の萩の萩

は 井瓦  
は 吉竹  
梅 雨沼  
梅 素泊  
梅 彩石  
梅 悠志  
梅 敦水  
梅 文里  
梅 瓦山

秋十三

蘭

おの風ゆらゆら萩の志  
 萩の志ゆらゆら萩の志  
 萩の志ゆらゆら萩の志  
 萩の志ゆらゆら萩の志  
 萩の志ゆらゆら萩の志  
 萩の志ゆらゆら萩の志  
 萩の志ゆらゆら萩の志  
 萩の志ゆらゆら萩の志  
 萩の志ゆらゆら萩の志  
 萩の志ゆらゆら萩の志

後 几董  
後 警春  
後 翠先  
後 同山  
後 我白  
後 桃李  
後 繁葉  
後 流光  
後 有楮  
後 梅夜

藤袴  
 桔梗  
 沢桔梗

仙翁花  
曼珠沙華  
鬱金花  
蕤荷花  
冬花  
旋覆花  
狼牙草  
水引草  
千日紅  
草花

せんおうやふいそをまじりて  
牛追のたよりをいひまはるる  
女弟のあはれをいひまはるる  
拾遺のたよりをいひまはるる  
馬路のたよりをいひまはるる  
小舟のたよりをいひまはるる  
之のたよりをいひまはるる  
然るまじりていふも  
結ぶもいふもいふも  
これ打建のたよりをいひまはるる

冬  
百毒  
下  
風路  
河内  
周耕  
紀伊  
友雲  
乙馬  
万波  
柳平  
差程  
鯉魚  
雪幸  
秋十四  
酒速

忍草  
芭蕉

忍草のたよりをいひまはるる  
芭蕉のたよりをいひまはるる  
松音のたよりをいひまはるる  
小魚のたよりをいひまはるる  
子影のたよりをいひまはるる  
素心  
兼之  
于巴  
其音  
吸露

冬  
百毒  
下  
風路  
河内  
周耕  
紀伊  
友雲  
乙馬  
万波  
柳平  
差程  
鯉魚  
雪幸  
秋十四  
酒速



角舟

瓢

夕顔

ちんちんはるも廣うらちの破り  
二つまふ中よりおきし色も  
曙のけしきとくしる落の音  
蜻蛉のしんせいの前より  
うらなひのしんせいの前より  
うらなひのしんせいの前より  
うらなひのしんせいの前より  
うらなひのしんせいの前より  
うらなひのしんせいの前より  
うらなひのしんせいの前より

作海

兼二

睡美

秋錦

秋錦

子羽

子羽

子羽

古道

秋十五

木瓜實

桃實

蓮葉龜

刀豆

菽花

隱元豆

西瓜

河津のこもり花のさき  
もはるや花のさき  
もはるや花のさき  
もはるや花のさき  
もはるや花のさき  
もはるや花のさき  
もはるや花のさき  
もはるや花のさき  
もはるや花のさき  
もはるや花のさき

蚊山

桃佐

公児

其丁

素寮

松意

有政

薑白

篠袴

絶嘉

布瓜

瓜の葉を煮て糸を引く

仙真

南瓜

瓜の葉を煮て糸を引く

斗衡

番椒

瓜の葉を煮て糸を引く

魚計

早稻

瓜の葉を煮て糸を引く

雲阿

生薑

瓜の葉を煮て糸を引く

北魚

早稻

瓜の葉を煮て糸を引く

稚菱

早稻

瓜の葉を煮て糸を引く

楓子

早稻

瓜の葉を煮て糸を引く

漁毒

早稻

瓜の葉を煮て糸を引く

其白

秋十六

稿

竹葉の葉を煮て糸を引く

以流

田中送

竹葉の葉を煮て糸を引く

東几

虫

竹葉の葉を煮て糸を引く

紫輪

虫

竹葉の葉を煮て糸を引く

野弓

虫

竹葉の葉を煮て糸を引く

素輪

虫

竹葉の葉を煮て糸を引く

挑路

虫

竹葉の葉を煮て糸を引く

百花

虫

竹葉の葉を煮て糸を引く

燈籠

虫撰  
 虫合  
 虫籠  
 虫賣  
 蚕

虫撰  
 虫合  
 虫籠  
 虫賣  
 蚕

秋十七

素郷 曾秋 其西 如泊 荷露 吳雪 星夜 其之 塘里 东舟  
 文登 俊祐 小埴 口水 道肥 築家 葛存 周路 東走 蝶後

夜半の月影に照らされぬ花の  
影に酔ふ者の情をさぐりて果  
つるはなを挿入するはなは  
くさくさく又花の影に照らされ  
るはなを挿入するはなは  
灯の影に照らされぬ花の  
影に酔ふ者の情をさぐりて果  
つるはなを挿入するはなは  
くさくさく又花の影に照らされ  
るはなを挿入するはなは

菊二  
東舟  
然叟  
加角  
散菴  
作茶知  
李清  
由理  
の性  
宗漢

秋十八

蚤斯

蜻蛉

寵馬

蟲蝨

たつ中へさすはあはれりて  
等しきもの事もあはれや  
たつ中へさすはあはれりて  
機織りもあはれりて  
絡繹もあはれりて  
さすはあはれりて  
さすはあはれりて  
さすはあはれりて  
さすはあはれりて  
さすはあはれりて

凡十  
其柏  
如柗  
女  
曾和  
二考  
吾右  
甜養  
井々  
青々  
梅戸

蠶

蠶

松虫

銀虫

稲ももろもろと食つてはまゝに  
 食つては細くしてはまゝに  
 食つては細くしてはまゝに  
 食つては細くしてはまゝに  
 食つては細くしてはまゝに  
 食つては細くしてはまゝに  
 食つては細くしてはまゝに  
 食つては細くしてはまゝに  
 食つては細くしてはまゝに  
 食つては細くしてはまゝに

出づ 瑞州  
 後法 和泥  
 語 里石  
 但 集老  
 但 斗跡  
 我法女 層凡  
 位 之代  
 位 露友  
 位 亞柳

秋十九

善虫

蚯

藻虫

蜻蛉

能く食つてはまゝに  
 能く食つてはまゝに  
 能く食つてはまゝに  
 能く食つてはまゝに  
 能く食つてはまゝに  
 能く食つてはまゝに  
 能く食つてはまゝに  
 能く食つてはまゝに  
 能く食つてはまゝに  
 能く食つてはまゝに

中 以中  
 至 至三  
 善 善厚  
 後 梅枝  
 後 茶楼  
 紀 杉和  
 呂 呂博  
 集 集老  
 花 花朝  
 如 如伯

蛸

秋蟬

町鈴のききとつめけりあは  
ちのききとつめけりあは  
東のききとつめけりあは  
日くもるききとつめけりあは  
ふもるききとつめけりあは  
重なるききとつめけりあは  
響のききとつめけりあは  
啼きとつめけりあは  
秋のききとつめけりあは  
鳴きとつめけりあは

秋止

横渡 李雪 蝶友 童起 嶺如 尚水 柳飛 江山 音碩

秋螢

秋蚊

阿きの螢のききとつめけりあは  
日くもるききとつめけりあは  
仍きとつめけりあは  
宵あきとつめけりあは  
甲あきとつめけりあは  
くもるききとつめけりあは  
あきとつめけりあは  
ききとつめけりあは  
秋のききとつめけりあは  
よるききとつめけりあは

埃川 芭楊 冬季 五升 呂鯨 雷馬 李中 度律 素牛 馬仙

秋蝶

秋蝶

秋の蝶は心細きより啼きしめる  
花ももよほしの秋氣をうけしる  
のらりぬらりむしき舞陣は  
人言ひし夢のうらをあそびし  
身成もろくさるるはけり秋の魂  
舞臺を掃きしころや秋の魂  
はのちをくまひに願ふをさるる  
秋の蝶はもよほしの秋氣をうけしる  
あまの蝶をよほしの秋氣をうけしる  
はのちをくまひに願ふをさるる

不里  
竹凡  
鳥名  
五來  
家凡  
致一  
海舟  
東芽  
古塘  
平角

秋世

鳩吹

鳩吹

ひさびさりし春をうけしる  
あまの蝶をよほしの秋氣をうけしる  
秋のてぬ風りし春をうけしる  
あまの蝶をよほしの秋氣をうけしる  
あまの蝶をよほしの秋氣をうけしる  
あまの蝶をよほしの秋氣をうけしる  
あまの蝶をよほしの秋氣をうけしる  
あまの蝶をよほしの秋氣をうけしる  
あまの蝶をよほしの秋氣をうけしる  
あまの蝶をよほしの秋氣をうけしる

露徑  
班爰  
素友  
秋葉  
只有  
露吟  
博子  
杉柿  
貝朱

荒鷹 出羽 あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
 小鷹狩 出羽 あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
 初鳥狩 出羽 あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
 竜田姫 出羽 あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹

八月

葉月 出羽 あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
 八朔 出羽 あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
秋廿二

田舎者 出羽 あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
 絵行末 出羽 あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
 彼岸 出羽 あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
 二百十日 出羽 あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
 出代 出羽 あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
 駒牽 出羽 あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹



放生會

引釣も毎々し鱧を拂つ  
龜を泥に魚をうらや放乎  
さしつとやお中魚あたら  
さつかりを放つを縁  
さしつ今世をうらや  
終別ももさしつを  
中夜をさしつを  
待宵や月の影さしつを  
待宵や月影さしつを

下院 我聖  
丹波 葉戸  
とに 霞孟  
陸奥 徳樓  
紀伊 丁月  
紀伊 考川  
越前 朝花  
越前 杜音  
越前 梅十  
越前 葉し

秋三

待宵月

名月

戸のさしつを  
中夜をさしつを  
名月や中夜をさしつを  
名月や中夜をさしつを  
名月の川をさしつを  
名月乃をさしつを  
名月乃をさしつを  
名月乃をさしつを  
名月乃をさしつを  
名月乃をさしつを

越前 其聖  
越前 比奈  
越前 太溪  
越前 魯白  
越前 聖弓  
越前 路耕  
越前 吉行  
越前 菊二  
越前 若菜  
越前 體旬







雨月

打くまき何んかあまの月  
さくさくおぼろの月雨月  
中よりあまの月あまの月  
あまの月あまの月あまの月  
あまの月あまの月あまの月  
あまの月あまの月あまの月  
あまの月あまの月あまの月  
あまの月あまの月あまの月

雨月

雪嶋

二石

素山

熊崎

野山

完寺

百井

野山

丁江

初瀬

秋廿七

野分

あまの月あまの月あまの月  
あまの月あまの月あまの月  
あまの月あまの月あまの月  
あまの月あまの月あまの月  
あまの月あまの月あまの月  
あまの月あまの月あまの月  
あまの月あまの月あまの月  
あまの月あまの月あまの月

一兆

五来

千尺

素海

李山

芦台

六合

桃东

猿菱

其中

朝寒

朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬

漸寒

肌寒

夜寒

秋廿八

秋雨  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬  
 朝露也秋 夕露也秋 霜也秋 雪也冬

但了 里石  
 梧子 五州  
 梧子 梧子  
 木姿 木姿  
 泰山 泰山  
 吳竺 吳竺  
 振衣 振衣  
 青守 青守  
 燕々 燕々



芍薬

養心也 尾を分るる行は  
馬をく好ましくおまをけ  
うまやの厚くもけり枯る  
りるや一はをせし 那を流

栲中

巴陵

李雪

山雪

花雪

藍花

紫苑

露叶

新流りし花をけりり藍の花  
石のく言もくく人の志をけり  
又その清くもさふし 苑を  
露叶や成るおれたのけり神  
けりるも指ももけりるるる

山雪

紫葉

梅人

山雪

湖隠

秋三十

月草

酸醬

月草や中を流るる新き心  
けりるも指ももけりるるる

此三

瓜泥

山雪

山雪

夏朱

春溪

芥室

文里

柳坡

狂序

烏頭

蓼花

秋海棠

秋海棠は花のまらふ小葉のた  
阿波大木園の心もも海棠



芙蓉

青の向ふ如き其は秋の心  
借光乃月もさしふる如く  
紅の如きもさしふる如く  
紫の如きもさしふる如く  
白の如きもさしふる如く  
赤の如きもさしふる如く  
黄の如きもさしふる如く  
黒の如きもさしふる如く

准定

波崎

理玉

頼成

八水

水尺

秋里

竹風

和流

泉明

花野

花野の如きもさしふる如く

桂

桂の如きもさしふる如く

木犀

木犀の如きもさしふる如く

秋三十一

葛花

極楽の如きもさしふる如く  
我々の如きもさしふる如く  
葛花の如きもさしふる如く  
ついでに隣をさしふる如く

馬北

泉々

四茶

坡明

筆海

東支

芦夕

布旦

土珍

菱友

野菊

野菊の如きもさしふる如く

鳳仙花

鳳仙花の如きもさしふる如く

白粉花

白粉花の如きもさしふる如く







編舟 編垣 編木 編塚 靱磨 栗

いふ舟よりいふ舟懸ちて入る  
 編舟も強きも弱きも掉し  
 編垣もふりもをり久我強  
 編木も掛も棟も極世に  
 編塚も編木もつるも皆  
 靱磨もや塚もつるも皆  
 栗も磨も田舎の房も視  
 栗の穂もつるも皆

木羽 狐舟 松壺 晋信 舎木 得皮 墨雨 右契

秋二千五

黍 蜀黍 稗 案山子

いふの穂も穂の苗も  
 黍も蜀黍も稗も案山子も  
 蜀黍も稗も案山子も  
 稗も案山子も  
 案山子も

官松 衣玉 岳虹 坡良 丁水 正巴 素石 雪魚 似推 六川

鳥聲

鳥聲のつとむるは秋の葉の  
さびしき音に似たり  
鳥の鳴くは人の心も  
秋の意に染むるなり  
鳥の音は秋の意を  
告ぐるに似たり  
鳥の鳴くは秋の意を  
告ぐるに似たり  
鳥の鳴くは秋の意を  
告ぐるに似たり

貞門  
文志  
瑞流  
曾秀  
吉容  
五鹿  
杏籟  
未風  
佳雲  
馬秋

秋三十六

鳴子

鳴子の音は秋の意を  
告ぐるに似たり  
鳥の鳴くは秋の意を  
告ぐるに似たり  
鳥の鳴くは秋の意を  
告ぐるに似たり  
鳥の鳴くは秋の意を  
告ぐるに似たり  
鳥の鳴くは秋の意を  
告ぐるに似たり

鳥名  
谷水  
杜良  
羅人  
二朝  
鄰史  
野橋  
紫二  
雛化  
尺艾

鳴竿

引板

添水

しんすい

俊祐

ついで

雨橋

あま

路香

燒帛

やうぼう

好山

あま

連水

落水

らくすい

約我

あま

後鳥

あま

如伯

あま

猿愛

秋三十七

秋水

しゅうすい

支百

あま

青馬

あま

丁也

あま

一岸

あま

彩心

あま

涼秀

あま

寸莖

あま

甫尺

あま

葉二

あま

善柳

擣衣

ちぎり

善柳







鴨 棕鳥 櫻鳥 翠雀 山雀

さうらうのうらなひのうらなひ  
たしなうらなひのうらなひ  
ひらなうらなひのうらなひ  
つらなうらなひのうらなひ  
わらなうらなひのうらなひ  
のうらなひのうらなひ  
川うらなひのうらなひ  
山うらなひのうらなひ  
さうらうのうらなひの中

一棠 燕兒 文治 以流 桃水 紫雲 蛙考 葛麻 悠雲 福花

秋四十

四十雀 連雀 頰赤 同白 啄木 鷓鴣

元しんしんしん初もや  
木のうらなひのうらなひ  
天余もやうらなひの中  
さうらうのうらなひの中  
朝のまふもやうらなひの中  
外もやうらなひの中  
木つたもやうらなひの中  
啄木もやうらなひの中  
同白もやうらなひの中  
鷓鴣もやうらなひの中

如戸 林陽 紀方 春香 近江 喜情 東 一晴 陸奥 丁水 陸奥 語来 東走 彦樞 伊勢 棠字 他鳥 噴糸

鴨柳並

鴨柳並 鴨柳並 鴨柳並 鴨柳並

在江

鴨柳並

鶺鴒

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

紀伊

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

紀伊

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

紀伊

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

紀伊

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

紀伊

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

紀伊

鶺鴒

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

秋四十一

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

紀伊

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

紀伊

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

鶺鴒

太刀魚  
沙魚  
江鱈  
小澤江鮎  
鱸  
初鰯  
小鰯  
落鮎

たち魚の鮎やひらきと成の鮎  
とせ約や鰯のまゝの法鮎の鮎  
毎昔の鮎とさう其鮎の鮎  
夕白の鮎とさう其鮎の鮎  
細うてさうとさう其鮎の鮎  
花とさうとさう其鮎の鮎  
小うとさうとさう其鮎の鮎  
けさうの鮎ありさう其鮎の鮎  
落鮎の鮎ありさうとさう

無鱈  
春鮎  
好く  
雲波  
宣鮎  
丹見  
買笑  
写妙  
谷水

秋四十一

落鮎  
下築  
蛇穴入  
鹿

落鮎の鮎ありさうとさう  
おら鮎や鮎ありさうとさう  
落鮎の鮎ありさうとさう  
落鮎の鮎ありさうとさう  
落鮎の鮎ありさうとさう  
落鮎の鮎ありさうとさう  
落鮎の鮎ありさうとさう  
落鮎の鮎ありさうとさう  
落鮎の鮎ありさうとさう  
落鮎の鮎ありさうとさう

圃丈  
鳳沖  
二鳥  
和席  
松三  
香山  
芦笛  
瓦合  
南善  
松寺











青楓  
 葉二  
 葉一  
 中々  
 曉基  
 花鳩  
 種落  
 山翠  
 之尺  
 左江

梅紅葉  
 漆紅葉  
 萬紅葉

夕陽の影をうけて  
 白雲の影をうけて  
 夕陽の影をうけて  
 夕陽の影をうけて  
 夕陽の影をうけて  
 夕陽の影をうけて  
 夕陽の影をうけて  
 夕陽の影をうけて  
 夕陽の影をうけて  
 夕陽の影をうけて

秋四十七

雨上  
 左夷  
 杜栗  
 曾秋  
 拍水  
 花翎  
 貝朱  
 招字  
 一竿  
 吐曉

柗紅葉  
 檜紅葉  
 柳紅葉  
 不色葉松  
 鴨脚  
 銀杏  
 栗

かやあつたうら  
 葉紅木  
 柳の葉  
 まの葉  
 赤い葉  
 松の葉  
 浴衣の葉  
 一葉  
 まの葉  
 くの葉

固桑 榛 椎 柞 法枝

ともくつりしつゆもろき葉の影  
 せりあふ今なき積り清くあり  
 志の成るやうにけしき有る枝の  
 指の陰ふ一人の心も志のふか  
 なるは柞もあふる高樹の  
 夕をくやうつらみの一を所  
 阿蘇の 様もきし けしあふる  
 法枝や海をゆく人か枝の  
 志の移るやうに人か指の  
 一の枝のくさるもあふる

堅果知  
 梅金  
 似葉  
 杜栗  
 是石  
 其白  
 鱒魚  
 二柞

秋四十八

熟枝 蜜柑 金柑 柚

深くまのさきりし 葉ももろき  
 深く紅く結ぶもろきは世の  
 志の移るのさきりし 葉ももろ  
 低くまのさきりし 葉ももろ  
 し 葉ももろき 葉ももろ  
 暗く丸く結ぶもろきは世の  
 冷あてし 葉ももろき 葉ももろ  
 今ももろき 葉ももろき 葉ももろ  
 きん柑ももろき 葉ももろき 葉ももろ  
 ものめりし 葉ももろき 葉ももろ

白嶽  
 杜音  
 楓子  
 六川  
 了随  
 喃山  
 似葉知  
 冬李  
 路静  
 道肥

接

極  
松楸

九年母

胡桃

梨子

榎植

楡楸

極も自や耐まらに柿の如

くもの葉不富のそむくは

早くそむのすもる月さく

夕照さくふく極の目家

くひんもさく其さ風

米あも破風打ぬ思

冷や小楸ははるか

ふか目家あもさく梨

榎植の本丹隣まじり

馬櫛也 二もさく七

上叶 梧生

紀序 他哉

一扇 琴峰

社弓

探梅

誰夏

打鳥

之冲

之推

秋四十九

椽實

掠實

椽實

椿實

椽實

瓢木実

梅檀子

皂角子

もりのあまきやは世の人さ

しむるまや一むもりのあ

日の影はまらうのや一了場

喜の心もさく椽の葉

物さの心あもさく椽乃実

秋もさくもさく椽の子

松もさくもさく椽の葉

瓢木もさくもさく椽の葉

梅檀の葉もさく椽の葉

皂角の葉もさく椽の葉

芦淮

漢水

浮左

鳳羽

奴宮

右心

呂生

文川

仙雲

早江

南天子  
菩提子  
鴨上戸  
仙菓  
梅嫌  
木實  
老轉笑  
吾亦紅

後きあてし今も金は出さぬ  
さういふは只もあつた  
ちやもさし出さぬ  
世もも頼りし  
ちやもさし出さぬ  
梅嫌もさし出さぬ  
くさくさ流し  
ちやもさし出さぬ  
地榆あつた

誰姿  
一徹  
秀噴  
麥雨  
仙市  
竹風  
可字  
東走  
士川

秋五十

草實  
思州  
龍膽  
苦花  
薄散

竹まき  
大戸中  
ちやもさし出さぬ  
ちやもさし出さぬ  
ちやもさし出さぬ  
ちやもさし出さぬ  
ちやもさし出さぬ  
ちやもさし出さぬ  
ちやもさし出さぬ  
ちやもさし出さぬ

作  
込人  
促  
素釣  
丹士  
涼夕  
李芳  
翅蘭  
青密  
苦白

松露

松茸

初茸

紅茸

櫻茸

黃茸

竹のほろ小貝ふきしるせしるふ  
搔くすくすく多し松茸を露のふ  
きしるやまをきしるしるふ  
まの茸や採りしるしる  
は海茸のしるふもやまの松茸  
とて茸のふきしるしるふ  
松茸の神ふしるしるふ  
切株の若きしるしるふ  
しるふしるしるしるふ  
しるふしるしるしるふ

其則  
雨泣  
松月  
以流  
東龍  
松茸  
主香  
林泉  
自來  
蝶夢

秋五十一

蕨茸

針茸

茸狩

木菌狩

裏枯

このはらふ茸やうまうま茸  
とて茸やしるしるふ  
茸のうまうま茸  
茸のうまうま茸  
たけのこやうまうま茸  
神のうまうま茸  
かまの茸のうまうま茸  
うまうま茸  
茸のうまうま茸  
茸のうまうま茸

九和  
西厓  
向山  
篠袴  
鄙長  
稼良  
卧猪  
只言  
喜路  
伊勢

野山錦

木乃の葉も月お井の畦心な  
廣くはまきくくく西乃錦  
松乃ふきく野山錦乃  
うらか入るもまの松乃  
一昨の首あまの松乃  
杉の葉は落る田乃おく  
稲穂乃れり秋乃  
何れあつてもて松乃  
刈りまふ今八月は田毎  
りり松乃のちり田毎乃

上注  
佐及

松乃知

加安  
吳雪

下注  
素兄

下注  
虎鳥

加安  
赤喬

下注  
虎来

下注  
以龍

了節

秋五十二

文里

晚稻

秣

刈田

新葉

新茶

新酒

合道酒

足取つて冬結るの松乃かり田乃  
鶴乃まての松乃松乃松乃  
新乃まての松乃松乃松乃  
新葉乃は事なり松乃松乃  
まての松乃松乃松乃  
新乃まての松乃松乃松乃  
一入酒乃松乃松乃松乃  
牛乃松乃松乃松乃松乃  
松乃松乃松乃松乃松乃  
松乃松乃松乃松乃松乃

松乃  
藤乃

松乃  
柳乃

松乃  
羽徳

松乃  
松乃

松乃  
耳谷

松乃  
松乃

松乃  
龍渚

松乃  
渡口

松乃  
徐生

松乃  
李郊

濁酒	古酒	初鴨	尾越鴨	霜降比	熊栗棚	雀為蛤	豺茶獸
中酒の濁りも昔を月のみ 新海を遠く出た古酒の研 たのむもやれぬ水田の清き 朝の鴨や尾越鴨を吹り 尾越鴨や小笹成るかの胸 鳴るやおれもよき通子麻 霜降さうとよき昔のつた 栗の棚り止まる熊乃るる 蛤りたると久乃蛤も老す 熊乃まうりお清りすもや那	三向 桐茂	大陽 雲道	女 花明	目防 山魚	鷓水	雀 青梅	晋信

秋五十二

綿操	綿打	新綿	網打	朋築	羽茶鮎		
綿のりや十市村果の文つて 綿うちや紙帳よらる打乃り わすれしや紙帳よらる打乃り 新綿や志す業の業まらる 新綿や志す業の業まらる 網打も業の業まらる夜 羽茶鮎も業の業まらる 朋築も業の業まらる 綿うちや紙帳よらる打乃り 綿のりや十市村果の文つて	故栖	一呼	鷓若	友固	巴文	竜川	蔭亭

星月夜

しほの標や思ふせつるるくあふと名  
そのまにぬきぬき故なり守り自よ  
しほのまにぬきぬき故なり守り自よ  
しほのまにぬきぬき故なり守り自よ  
しほのまにぬきぬき故なり守り自よ  
しほのまにぬきぬき故なり守り自よ  
しほのまにぬきぬき故なり守り自よ  
しほのまにぬきぬき故なり守り自よ  
しほのまにぬきぬき故なり守り自よ  
しほのまにぬきぬき故なり守り自よ

臨善  
徳樓  
左朝  
其白  
柳郊  
棠故  
効凡  
竹風  
齒古

露時雨

秋五十四

暖霜

秋霜

秋夜

暖霜のまにぬきぬき故なり守り自よ  
秋霜のまにぬきぬき故なり守り自よ  
秋夜のまにぬきぬき故なり守り自よ  
暖霜のまにぬきぬき故なり守り自よ  
秋霜のまにぬきぬき故なり守り自よ  
秋夜のまにぬきぬき故なり守り自よ  
暖霜のまにぬきぬき故なり守り自よ  
秋霜のまにぬきぬき故なり守り自よ  
秋夜のまにぬきぬき故なり守り自よ  
暖霜のまにぬきぬき故なり守り自よ

五有  
二拾  
蘭惠  
是月  
他素知  
士朗  
重原  
素以  
菊徳



長夜

灯心燈油も秋の暮も  
たう紙巻や心もつらふ  
夜はあつたふも秋の暮も  
梅あつたふも秋の暮も  
もまもる人も秋の暮も  
あつたふも秋の暮も  
あつたふも秋の暮も  
あつたふも秋の暮も

但る  
五斗  
魯白  
他意  
利字  
散菴  
就愛  
白雄  
五束  
荒振

秋五十九

秋暮

年々も秋の暮も  
月夜も秋の暮も  
雨も秋の暮も  
心も秋の暮も  
あつたふも秋の暮も  
あつたふも秋の暮も  
あつたふも秋の暮も  
あつたふも秋の暮も  
あつたふも秋の暮も

路人  
存者  
集蟻  
上叶  
双牛  
三泉  
曹妹  
野上  
蘭戸  
东籬  
芦皓  
瓦全

雲鳥片念何の秋やあまの暮  
出さるる旅人の心秋乃の  
向ふも思ふ心は向ふも秋乃の  
秋乃の秋乃の秋乃の秋乃の  
秋乃の秋乃の秋乃の秋乃の  
秋乃の秋乃の秋乃の秋乃の  
秋乃の秋乃の秋乃の秋乃の  
秋乃の秋乃の秋乃の秋乃の

紀伊 馬駒  
通職  
吉行  
藤妻  
其の 草壁  
杜田  
折付 百尾  
左言  
美法 百重

秋五十六

暮秋

はし一観く人愁くぬ秋の  
影りつもの心秋乃の  
暮あつらん人の暮あつらん  
つらさきとあつらん人の暮あつらん  
わつらんつらさきとあつらん人の暮あつらん  
陸下は何と笑ふもあつらん人の暮あつらん  
秋のつらさきとあつらん人の暮あつらん  
阿波のつらさきとあつらん人の暮あつらん  
人あつらんつらさきとあつらん人の暮あつらん  
暮あつらんつらさきとあつらん人の暮あつらん

青葙  
菊二  
塔里  
抱尻  
芦水  
唐平  
依子  
とに 覚甲  
伊勢 抱雨  
巳四

行秋

昔の秋平も秋経るて通るる  
木も心も丹心も心も心も秋  
はるや秋の心も心も心も日  
冬も心も心も心も心も心も  
秋も心も心も心も心も心も  
心も心も心も心も心も心も  
心も心も心も心も心も心も  
心も心も心も心も心も心も

一路  
石蘭  
坡反  
楓子  
落丘  
兵白  
舞容  
妻鴉  
杜音  
泰山

秋十七

秋惜

冬近

行秋も心も心も心も心も心も  
心も心も心も心も心も心も  
心も心も心も心も心も心も  
心も心も心も心も心も心も  
心も心も心も心も心も心も  
心も心も心も心も心も心も  
心も心も心も心も心も心も  
心も心も心も心も心も心も  
心も心も心も心も心も心も

立来  
林鳥  
枕壘  
凡和  
淡碎  
毫測  
如在  
彩石  
寸枝  
石苑

冬ハ

九月盡

閏九月

冬まつや梅さきも吹らぬ  
小波あつた冬の夜まつり  
行町や三層のつらき冬  
難路かちりもあつた  
懐もさるる秋の夜を  
吐き出し秋の夜を  
寂しみの夜を  
冬まつりもあつた

稼良

几葎

江山

東朝

特夏

四上

竹扉

浪客

